Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

一般社団法人 Japan Jenaplan Association

日本イエナプラン教育協会

ニュースレター vol.35 2019. 3月号

Contents

1．市民による市民のための市民をつくる教育（特別顧問　リヒテルズ直子）
2．大日向小学校開校までの道程（学校法人茂来学園 大日向小学校　校長　桑原 昌之）
3．協会理事選について
4．支部報告

市民による市民のための市民をつくる教育

～ムーブメントとしてのイエナプラン～

特別顧問　リヒテルズ直子

日本イエナプランの元年

今年４月に、ついに、長野県南佐久郡佐久穂町に、日本で第１号のイエナプラン・スクールが開校されることとなりました。これまでにも、学校の中で個別にイエナプランに取り組んできた先生方はいらっしゃったと思います。しかし、イエナプランという名を冠し、教育活動全体をイエナプランのコンセプトに基づいて展開している学校は、まだありませんでした。その意味で、この学校の開校は、日本教育史においてまさしく画期的なことであり、設立者の果敢な決定、関係者の数々の努力、さらに、この学校を正式に認可した長野県職員の見識に、深く頭が下がります。

この学校の開校ニュースの影響かとも思いますが、昨年11月以降、にわかに、日本各地の自治体から、公立校としてのイエナプラン・スクールの設立や、イエナプランのコンセプトを公立学校に導入したいという意向が聞こえてくるようになりました。すでに、それらの自治体からオランダでの視察が行われていますし、そのためのコンタクトもいただいています。

こうした動きも、日本イエナプラン教育協会の理事たちはもとより、これまで、オランダに視察にみえたり、オランダで研修を受けたりされた方々が、それぞれ自分の現場で周囲の方たちにイエナプランについて語り、説得し、理解を広げてきてくださったからだと思っています。日本に、本当の意味でイエナプランのコンセプトが根付くためには、大きなメディアに取り上げられてブームを生み出すことよりも、むしろ、草の根の現場にいる人たちが、心からイエナプランに賛同し、その声を広げていくことしかないと思ってきました。時間はかかりましたが、人々の内発的で主体的な動きが、このような動きを生み、とうとうここまできたことを心から嬉しく思っています。

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

フロイデンタールとその時代

ようやく、日本でイエナプランが現場の実践例として広がることになった今、オランダでイエナプランが広がっていった50年余り前のことに想いを馳せずにおれません。

オランダの新教育運動組織で長く書記の役割を務めていたスース・フロイデンタールという女性が、ペーターセンの『小さなイエナプラン 』に出会ったのは1952年ごろと言われています。第２次世界大戦が集結してまだ７年目。戦時中に、ユダヤ人だった夫（世界的にも有名な大学教授だったハンス・フロイデンタール）を強制収容所に連行され収容されてしまい、彼女は、一人で家族を守り支えたのです。共生や連帯のある社会を目指し、そうした理想の社会を「生と学びの共同体」として学校に実現しようとしたペーターセンの教育理念は、スース・フロイデンタールの心に果たしてどのように映っていたのでしょうか。それについては知る由もありません。しかし、彼女は、「『小さなイエナプラン 』と出会って初めて自分が探し求めていた学校教育のあり方を見つけた。」と言っています。そして、それ以後、彼女の人生は、オランダでイエナプラン教育を広げることに捧げられていくのです。

母子家庭で育ち、貧しくて助教師にしかなれなかったケース・ボットが、スース・フロイデンタールとともに米国に理科教育を学びに行き、やがて、オランダ・イエナプランのワールドオリエンテーションの枠組みを作り、オランダ・イエナプラン教育協会の研究主任となって、有名な『イエナプラン21』を書いたこと。スースの影響で初めてイエナプランに取り組んだユトレヒトの小学校に、新任教師として就任したばかりだった若きアド・ブースが、のちに、アッセンの教員養成大学にイエナプラン部を開設して、多くの後進のイエナプランナーを育て（フレークさんもその一人）現在に至るまで、常に教員の立場から、国会議員らに「良い教育」のあり方を訴え求め続ける運動家になっていったこと。こうしたことは、スース・フロイデンタールが、草の根の教育改革を目指していたことと重なります。彼女自身、文科省の大臣ら、国家の教育行政の責任者たちに働きかけながらも、常に、現場の教師たちにこそ、公教育の担い手、主体的な当事者として改革の担い手になってほしいと考えていたのだと思います。

私が日本に「オランダ・イエナプラン 」を伝えるために拙著『オランダの個別教育はなぜ成功したのかーーーイエナプラン教育に学ぶ』を上梓したのは、2006年のことです。以来、今日までなんと13年の歳月が流れています。その間私自身、日本でイエナプランを広げるためには何をどうしたら良いか、と悩み考える度に、常に『小さなイエナプラン 』とフロイデンタールの活動を振り返ってきました。

そうしながら明確になってきたのは、ペーターセンも、フロイデンタールも、どちらも、目指していたのは、公教育を国の支配者の手から一人ひとりの市民の手に戻すことだった、ということでした。一人ひとりの市民とは、教員であり、保護者であり、地域の人々、そして、いずれ成人していく子どもたち自身です。私たちは、誰か他の人のために大人になるのではなく、自分自身が豊かな生活を送るために大人になるのです。そして、自分自身の生の豊かさは、他者を受け入れ、他者との信頼を築くことなしにはあり得ません。自分らしく生きられることと、他者を尊重することとは、表裏一体のことなのです。

スース・フロイデンタールがオランダ教育界に対してイエナプランの存在を訴えたのは、『小さなイエナプラン 』との出会いから約12年後の1964年のことでした。そして、本当に勢いよく学校数が増えていったのは1970年代になってからです。多分、時代の風を捉えたこのタイミングが、オランダでイエナプランが広がることとなった要因の一つであったと思います。

1960年代以降のヨーロッパ、特に、オランダでは、大量の殺戮と破壊をもたらした戦争が終結した後、若者や知識人らが、そうした戦争を引き起こした社会のあり方を「消化」せねばなりませんでした。

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

二度と悲惨な戦争を起こさないためには、新しい社会づくりにどう取り組めば良いのかと真剣に悩み考えていた時代だったと言えます。しかし、彼らのすぐそばには、米ソ対立による核戦争の危機が現実のものとしてあり、戦災復旧に続く急速な経済回復の裏で、人々の住まいのすぐ身近にある水や空気が急速に汚染され始めていた時代でもありました。

そうした背景を考えてみると、皆さんがよくご存知の「20の原則」が語っていることが、なお一層、現実味を持って聞こえてくるのではないでしょうか。

残念なことに、オランダでもイエナプラン・スクールは、今でも全体の３％、イエナプランナーたちや、反戦・環境保護運動をしている知識人たちはマイノリティでしかありません。世界全体を眺めてみると、あれから60年足らずの間に、世界中が核戦争の危機下にあり、自然環境は、動植物はもとより、人類そのものの存続を脅かすほどに破壊されてしまっているというのに、です。

オランダのイエナプランナーたちに、せめてでも繋がって、幸せで豊かな未来世代の人間形成に少しでも貢献がしたい、日本で未来世代の幸せと環境回復のために何をすべきかと悩んでいる人々とイエナプランを媒介にして繋がることができたなら、、、、私が日本にイエナプランを伝えようとした理由はこれ以外にはありません。

８つのミニマム

ところで、皆さんも、翻訳などで読まれたことがあると思いますが、ペーターセンの『小さなイエナプラン 』という本は、薄く小さな本ですが、とても難解な本でもあります。それは、ペーターセン自身が、ありとあらゆる哲学に通じ、ラテン語やギリシャ語も使い、深い思索をしていた学者だったからでもあります。

フロイデンタールは、この『小さなイエナプラン 』のエッセンスを８つのミニマムとしてまとめています。その後、オランダ・イエナプラン協会は、参加校の全員一致で「20の原則」を採択し、現在では、「20の原則」の方が圧倒的によく知られています。しかし、オランダでイエナプランが普及していく最初の時期に書かれた８つのミニマムを読むと、その時代のオランダの学校教育の問題が透けて見えてくるような気がするのです。そして、その問題は、それから50年以上も経った今の日本の教育問題に大変重なるものが多いと思います。こんなにも長い間、なぜ、私たちには、こういう教育を実践することができなかったのだろう、と考える一つのきっかけにもなると思います。そこには、国の制度としての公教育の捉え方、それゆえの制度上の違いや、学校とはどうあるべきかについての考え方の違いがあったともいえるでしょう。

しかし、「公教育とは、本来、こうあるべきなのだ」と、それが、ペーター・ペーターセン、スース・フロイデンタールが伝えようとしていたことでした。僭越ながら、私もそこに連なりたいと思っています。

８つのミニマムとは、学校教育を「形」だけのものにするのではなく、その後ろにある「理念」に常に立ち返るためのもの、項目のそれぞれを今は実現できていなくても、少なくともそこに向かって努力していることが分かるようにするためのものです。ミニマムとは、最低限これだけは目的として追求しようという意味です。オランダでは、より良く実現できるように「戦っていくためのモデル」とも呼んでいます。常に心に置かねばならないのは、目に見える現実と、それを「どこに向かって」改善しようと努力しているか、の両方であるということです。オープンモデルの意味は、ですから、ミニマムへの戦いの際に、創意工夫をしなさい、という意味なのです。

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

８つのミニマムは、①インクルーシブな思考(Inclusive thinking)に向けた養育(upbringing)、②学校の現実の人間化(humanization)と民主化(democratization)、③対話、④子ども学的な思考や待遇法の人類学化（antropoligisering)、⑤真正性（ホンモノ性）（authenticity)、⑥生と学びの共同体がもつ共同体の自律に基づいた秩序によって得られる自由（freedom)、⑦批判的思考（critical thinking)に向けた養育、⑧創造性(creativity)の８つです。この８つのミニマムもかなり抽象的ですが、言わんとしていることは理解できます。

試しに、この８つの概念の反対概念を挙げてみましょう。

❶エクスクルーシブな思考に向けた教化、❷学校の現実の非人間性と非民主性、❸対話の不在、❹子どもの発達過程に対する科学的研究に基づかない思考や待遇の仕方の無機性、❺（自分の内発的な意見ではなく）タテマエ主義、❻共同体としての自律がないために外部からの干渉にさらされ自由を失っている学校、❼批判的思考を受け入れない教化、❽創造力の抑圧

いかがでしょうか。皆さんが関わっておられる学校や幼稚園、保育園などの養育現場の姿は、８つのミニマムに近いものでしょうか、それとも、黒い番号で示した、その逆の姿に、より近いものでしょうか。

今でこそ、学校現場には、日々努力して、上の８つのミニマムに近い実践を目指しておられる方が増えていると信じています。しかし、かつての日本の学校は（そしてオランダはじめヨーロッパの学校も）、❶子どもたちにいろいろな考え方をさせないで、大人が決めた「正しい」考えを信じさせ、多様性を認めない、❷学校は一人ひとり皆ユニークだという人間的な側面を捨てて、機械の部品のように同一になるように求め、❸手間や暇のかかる対話には時間をかけず、❹一人ひとり異なるテンポで発達するというものであることはわかっていても、同年齢の子どもには同じことができるものだという迷信を押し付け、❺思ったままの意見を述べることを良しとせず、周囲の人の思いや「空気」を読んでものが言え、行動できるようになることを良しとし、❻学校を、子どもが安心して過ごせる独立した・自律した共同体とせずに、外部、特に高次の教育行政の干渉を容易に受け入れ、教職員の自由闊達で柔軟な対応ができなくなっており、❼教員の文言とは異なる意見やアイデアを認めず、その結果、❽創造性が育つ余地を完全に奪って来たのです。

私たちは、一体、本当のところどちらの学校を求めているのでしょうか。あなたが、教員や教育者になろうとした時に目指していた学校とは、どちらの学校だったでしょうか。

私たちは、一体全体、どんな社会を求めているのでしょうか。

市民による市民のための市民をつくる教育

この13年間、拙著『オランダの個別教育はなぜ成功したのかーーーイエナプラン教育に学ぶ』に著者サインを求められるたびに、私は「市民による市民のための市民をつくる教育を目指して」という言葉を書いてきました。この言葉は、ペーターセンやスース・フロイデンタールの遺志を、私なりに表現しているつもりです。

ペーターセンも、フロイデンタールも、イエナプランを広げていくにあたり、常に、「普通の学校がこうあるべきだ」ということを強く意識していました。つまり、自分たちだけで、あるいは、資金のある保護者だけを集めて、あたかもユートピアのように自分たちだけの学校を作ることが彼らの関心の的ではなかったということです。彼らが実現したかったのは、すべての学校が、教員と保護者と地域の人々に支えられた、子どもたちを子どもたち自身の幸福な人生のために育てる学校になることでした。

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

元来、イエナ大学の実験校であったペーターセンの学校は、世の中から隔離され、裕福な家庭の子どもだけが通う（エクスクルーシブな）私立校になるためではなく、一般の人々が通う学校がこうあるべきだとの姿を示そうとしていたのです。

ペーターセンは、床にクギ付けになった机を取り外し、小グループごとのテーブルに生花を活け、子どもたちに、完全に「動きの自由」を与えました。子どもたちを信頼することから始めようとしたのです。子どもたちは、自分の責任で動くことを学びました。教室の壁は黒板で覆われ、子どもたち同士が、その黒板を使って学び合いをしたり考えを交換したりできました。男女が別の教室で学んでいた時代に、男女共学を実践しました。動く自由を奪われなかった子どもたちは、共同体の秩序を保ち、他者の迷惑にならずに動くことを学びました。そして、そこに通っていた子どもたちの多くは、イエナにあったレンズ工場の労働者の子どもたちだったのです。

また、フロイデンタールが、イエナプラン・スクール運動のために、文科大臣に説明に行ったり、新初等教育法の制定に積極的に影響を与えたのも、彼女が、イエナプランの考えこそを公教育のスタンダードにしたかったからです。

ユートピアのように、狭い限られた場所で、自分たちだけで満足できる教育をしていたらどうなるでしょうか。子どもたちは、やがて、大きな世界に出ていかなければなりません。その世界に対して、大人たちが働きかけることなく、学校の中だけに理想の社会を作っていても、子どもたちは、生きた大きな社会に出て行くための準備ができているとは言えません。

社会が望ましくない姿なのであれば、子どもを育てる大人たちは、そこに背を向けるように「隠れ家」のような学校を作るのではなく、現実の社会に対して、それが少しでもより良いものになるように働きかけていくべきなのです。もちろん、学校の自律的な独立性を確保しながらです。そういう大人の姿が、子どもたちを、本当の意味で「社会に関与する」人間にしていきます。

「市民による」とはそういう意味です。自己利益だけを求めるのではなく、社会全体のより良い変革のために、自らが一石を投じていくのが「市民」です。

信頼づくりは批判的思考を育てる上での基盤

８つのミニマムには、言葉では簡単に言えますが、実践するとなると、とても難しいことがいくつも書かれています。だからこそ、「戦っていくためのモデル」と呼ぶことで、関係者が、共に、いつもそこに立ち返り、「対話」で意見交換をして、自らの意見を見直し、一緒により優れたアイデアに至るようにしているのです。８つのミニマムも、20の原則も、コア・クオリティも、校長室の壁にかかった「額」の言葉のように、「良いことだけは言っているのだけど、職員がそれについて話し合ったことは一度もない」というようなことにならないようにしなければなりません。

中でも、難しいのは、「ホンモノ」として「批判的思考」を持ち「対話」することではないでしょうか。言い換えるならば、自分が自分の頭で考えてこうだとしか思えないことは、その本音の気持ちを、たとえ相手と意見が対立しても、相手に伝えていくということです。反対意見を言うのは、お互いの意見をすり合わせることで、みんなでより良いアイデアに至るためです。

オランダでイエナプランの研修を受けた皆さんは、経験的に知っておられると思いますが、オランダのイエナプランの講師たちが一番力を入れるのは、チームづくりです。私たち人間は、弱いもので、自分自身を信頼することも下手ですが、他の人を信頼することはもっと下手です。でも、世界中の国々に行ってみると、文化も宗教も言葉も異なる人たちが、喜び、憩い、ともに笑っているのは、私たちが喜び、憩い、

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

笑うのと同じ状況で、です。人間は、違っていても基本は同じ。人としての感情は共有できる。こうした信頼は、実は簡単なようですが、意見交換ができる関係の前提としてとても重要なものです。それなのに、すぐに、相手が信頼できなくなる、自分自身への自信がなくなる、、、だから、イエナプランの教員や指導者たちは、何度も子どもたちに、みんなで一緒に遊び、一緒に祝い、一緒に様々な感情を共有させることで、「みんな仲間なんだ」という信頼感情を持てるようにするのです。

オランダでは、イエナプラン・スクールに限らず、相手がどんな地位や立場の人であっても「率直に自分の意見を言えるようになる」ことは、学校教育の重要な要素として意識されています。相手の気持ちを推量して、それに合わせてこちらの意見を調整したり変えたりするのは「日和見主義」に他ならないからです。しかし、同時に、相手の心を傷つけない、自分とは意見の異なる人にも耳を傾け、その意見について一考する態度も重視されています。こういうことができること、それ自体が「市民」である条件だと言っても、過言ではないと思います。人は、本来、成人するまでに、学校でそれができるように学んでおかなければならないし、教員たちは、そのために、学校という守られた場で、子どもたちがそうなるように指導しなければならないものです。

これから始まるイエナプラン・スクールでも、イエナプランのコンセプトを何らかの形で学校に取り入れたいと思っている公立校でも、この点を無視しては、本当にイエナプランを実現したことにはならないでしょう。理念のない、形だけのイエナプランは、イエナプランではありません。

子どもたちに向かって行く前に、自分たち教員が、お互いの間で、８つのミニマムを実現できているか、特に、ホンモノとして、本音で批判的思考をし、それを「対話」によってお互いに伝え合い、そこからより良い高次のアイデアに至る努力をしているかを、ぜひいつも見直してください。それができているときに、初めて、あなたのいる現場にインクルーシブな社会が実現しているのです。

競争でなく連帯

イエナプラン・スクールの開校や自治体の動きが聞こえてくる中、「うちが一番」「日本一の」「世界一の」というフレーズも一緒に聞こえてきます。意欲的なのは嬉しいことです。でもその一方で、いくらか不安も感じています。それは、そのように他よりも「抜きん出ること」、他の人を「出し抜く」ことこそが、今までの競争型学校文化の中心的な価値意識に他ならないものだからです。

イエナプランが、究極的に目指しているのは、インクルージョン、すなわち、どんな理由にせよ、人と人との間にボーダーを引くことをやめよう、ボーダーを超えて連帯しようということです。

資源や市場を求めた熾烈な競争の結果に起きるのが戦争です。文化や宗教の違いは、その時に、支配者らが自らの大衆に「戦闘意欲」を抱かせるために使う言い訳に過ぎません。人の言うことを鵜呑みにせず、自分の頭で批判的に考える市民は、そうした言い訳に踊らされることなく、ボーダーラインの向こうにいる人たちも、同じ人間として信頼できるという確信を持ち続けなければなりません。紛争が広がり、貧富の格差が広がり、人と人とが、獣のように争い合う時代が来ています。それだけに、ボーダーラインを超えて連帯を目指すことは、今後ますます難しくなっていくことでしょう。でも、どうか、このことを心にしっかりと刻んでおいてください。

日本におけるイエナプランの普及と確立は、お互いの実践から学び合う連帯感の強いムーブメントとして実践された時に、力強いものになるはずです。そのためには、そこで働く人皆が、自らの失敗を隠さず、他の人の失敗を糾弾せず、失敗をオープンにして、そこから学ぶ態度が大切なのだと思います。

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

日本中の学校が、何か問題が起きるたびに、「誰の責任か」「誰が責任を取って辞任するか」と騒いでいるときに、イエナプラン・スクールに関わっている人たちだけは、失敗を学びのチャンスとしてオープンに認めて、常に向上に向かっているという文化を築いていってほしいと思っています。

私たち人間は、皆、不完全で凸凹とした存在です。でも、皆、お互いのくぼみを指摘し合うのではなく、飛び出している良さを受け入れ生かし合う気持ちを持つことで、どれほど豊かな社会になるかわかりません。大抵の人は、くぼみを指摘されれば心を閉ざしてしまうものです。良さを褒められれば、オープンな気持ちになって、一緒に働こうという気持ちになれます。お互いを潰し合うほどに豊かな人材に恵まれてはいないのです。一人ひとりが大切な存在です。どうか、お互いに優しく、いつも８つのミニマムや20の原則で、他者と共に初心に帰ることを忘れずに、イエナプランを豊かに広げていってください。

協会のロゴマークができました！

Japan
Jenaplan
Association

協会のロゴマークができました。多様性を表現し、皆でつながりあってより良い社会をつくっていきたいという思いを込めたマークです。協会認定のイエナプラン・スクールには、このロゴマーク入りのプレートと共に認定証が送られる予定です！

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

大日向小学校開校までの道程

学校法人茂来学園 大日向小学校　校長　桑原 昌之

長野県南佐久郡佐久穂町で開校準備を進めてきた日本初のイエナプランスクール大日向小学校は４月10日に入学式を迎えます。

学校は、町のシンボルとして大切にされている茂来山を眼前に仰ぎ、そのすぐ下には千曲川の支流である抜井川の清らかな水が流れ、田畑が広がる美しい自然豊かな地域にあります。大日向小学校は、大日向地区の真ん中の高台（標高895メートル）に位置し、旧大日向村立大日向小学校・旧佐久穂町立佐久東小学校として地域の人たちから長く愛されてきました。その長い伝統と歴史を受け継ぎつつ、私たちは新しい歩みを始めることになります。

さて、2017年に佐久穂町イエナプランスクール設立準備財団が発足して以来、私たちは佐久穂町内の皆様をはじめ多くの関係者の皆様にお力添えいただきながら、準備を進めてきました。

特にリヒテルズ直子さんをはじめ日本イエナプラン教育協会の皆さんには、イエナプランスクールの在り方を考える様々なご示唆をいただきました。ここに集まる子どもたちに、信州の豊かな自然の中で、どのような学びの場を用意することができるのか、議論しながらカリキュラム検討を一緒にしていただきました。昨年４月にオランダを訪問したときには、これからの管理職の在り方について、JASのメンバーやオランダ・イエナプランスクールの先生方に多くのことを学ばせていただき、イエナプランスクールの校長としての具体的なイメージを描いていくことができました。実際ここでは書き切れないほど、これまでイエナプランを日本に広めたいとの思いを積み上げてきた日本イエナプラン教育協会の皆さんの力が、開校に向けての支えとなりました。

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

また、一条校としての学校設立には各種専門家の方々の協力も不可欠でした。「そもそも、学校法人として一条校になるには何が必要なのか。」というところからのスタートだった私には、担当部局を訪ね、必要な情報を集め、細かなチェックを専門家の皆様にしていただく一歩一歩の積み重ねでした。設立準備財団のメンバーと共に何とか申請書を作成し、最後のページには佐久穂町長さんの心温まるメッセージを添えていただき、無事に2018年６月に申請書提出となりました。

提出後から12月の認可決定まで、ドキドキしながらも、準備の手を緩めるわけにはいきませんでした。

特に大がかりなことは校舎のリフォームです。これまで大切にされてきた校舎の風合いを残しつつ、子どもたちが学びやすい教室づくり、先生たちが対話しやすい職員室づくり、地域のコミュニティセンターとしてのランチルームづくりなどについて、設計士さん、財団メンバーと何度も議論を重ねてデザインを決定し、工事に入りました。現場では、様々な職人さんたちが、時には氷点下となるような日も一所懸命に工事をしてくれました。

一方で、入学に向けた段取りを進めました。入学に関わるスケジュールを決定し、学校説明会を何度も開きました。学校見学会や、体験会である「季節のがっこう」なども、認可・開校に向けて続けていきました。

そして、昨年12月25日に認可が決定。私たちにとって、大きなクリスマスプレゼントとなりました。今年１月と２月の２回の募集と面談を経て、全国各地から55組のご家族、70名の児童が集まって来てくれることになりました。初年度からこれほどの子どもたちがやって来るのも、これまでお世話になってきた全ての皆さんのおかげであり、本当に感謝しております。

厳しい寒さも和らぎ、周辺のカラマツ林が一気に芽吹く４月、この校舎に大きな期待を膨らませながらやって来る子どもたちの姿を私たちは心待ちにしております。

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

協会理事選、来月スタート

なぜ理事選？

会員が増え、イエナプラン教育に対する関心が高まってきた今、組織としての基盤をさらに固め、活動規模を広げていくために行います。

→来年度から、協会は民主化に伴い理事選挙を行います。より広く多くの方が協会運営に関わることができるようにしていきます！

これまでは、声を掛け合い集まった有志６名で協会を運営してきていました。

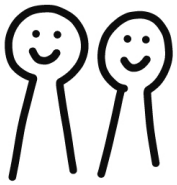
今後のスケジュール

4月・理事選公示、立候補者募集
　・立候補者による理事立候補への想いの表明

5月・理事選挙（ネット投票）
　・新理事会にて代表を選出

6月　総会にて承認の上、新体制スタート

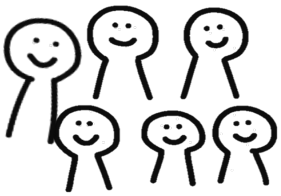
協会正会員の２名の方が、選挙管理委員をしてくださいます。



理事定員や資格

理事定員　4～6名
理事任期　4年
・引き継ぎをスムースにするため、2年ごとに半数が交代。
・今度の第1回選挙は、現理事が2名残留した上で行う。
被選挙権　協会正会員であること
選挙権　　協会正会員であること

理事は事務局を兼ねます。仕事のアレコレについて、次ページからご紹介させていただきます！



Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

理事って何するの？？
徹底解剖！！

Q&A

Q 理事と事務局の仕事は同じ？

A 理事は事務局を兼ねます。事務局と理事の仕事内容に差はほとんどありません。詳しくは【別紙事務局のイエナプラン】をご参照ください。

Q 報酬はある？

A 理事も事務局スタッフも、報酬はありません。
ただし、以下に限っては例外です。

Check

・交通費、宿泊費（遠方の場合）
・講師費（依頼を受けた人の報酬）

Q 理事になるには資格が必要？

A 日本イエナプラン教育協会の正会員であることが必須です。
理事選はありますが、日本におけるイエナプラン教育の普及、ネットワーク作りに関心があり、やる気のある方なら、どなたでも立候補できます。教員免許などの特別な資格は必要ありません。

A ネットの掲示板やFacebookのメッセンジャー、メーリングリストを使い分けて議論をしています。
掲示板は170以上のトピックが立っています。

Q 会議や話し合いは、どうやってするの？

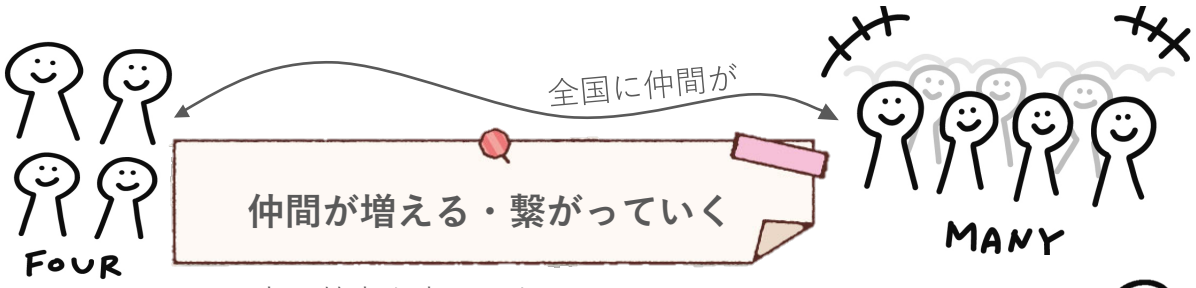
A zoomなど、インターネットを活用して行なっています。
メンバーの距離が離れていても大丈夫！

Q 仕事は大変？

A 専任の事務職員がいる訳ではないので、大変な場面はあります。
特に全国大会など、協会主催の会の前後は忙しいです。
仕事や育児の合間に協会の仕事を助け合ってやっています。

家族など、周囲の理解が必要です！

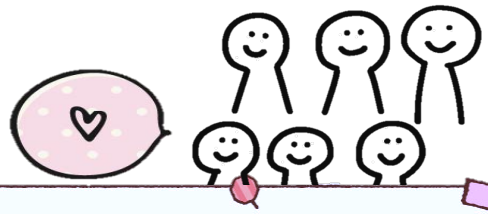
Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.



仲間が増える・繋がっていく

・ 日本の教育を良くしたい！
同じ想いの人と繋がって実践したい。

・ そんなこんなで、リヒテルズさんに支えていただきながら４人で協会スタート！
その後メンバーも、各地の支部も段々と増えていきました。
→繋がることが力となる。



イエナプランがライフワークに

・ 学び続ける人として、「共に生きる」を追求。
→事務局にいることでイエナプランナーでありたいという意識が育つ。

対話を続ける！
～違いのその先へ～

・事務局メンバーは、これまで一緒に仕事をしたことがない！住んでいるところもバラバラ！年齢もバラバラ！バラバラだらけ。
→共通項はイエナプランに惹かれたこと。

・様子見をして主体的に動けなかったり、忙しくて歯車が噛み合わなかったり・・。最初から全てうまくいっていた訳ではありません。
→対話でモヤモヤを少しずつ解消・解決！
→「できることをできる人がやる」私たちをチームにしたのは対話でした。

・ミーティングはインターネットで。大きな企画から細かい書類のことまで、話し合っていたらあっという間に２時間が過ぎます。
→全員で合意を形成するために、丁寧に話し合います。
→実際には、なかなか会えないメンバー同士。年に１回「慰労会」を開催し、仕事以外で会う場を設けるようにしています。リアルも大事！

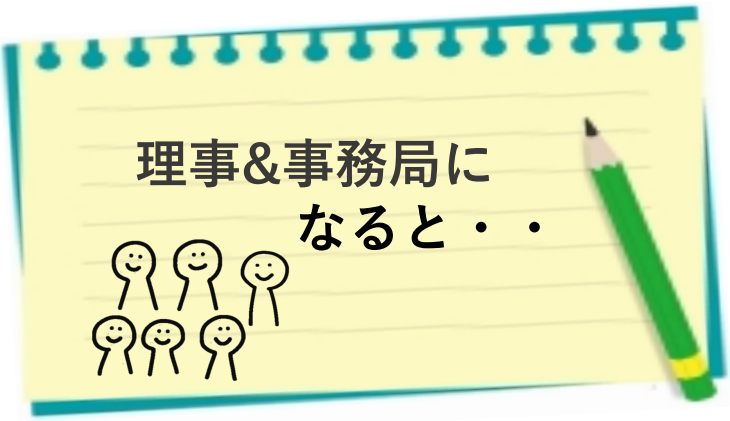
・「違いのその先へ。」難しい時もあるけれど、対話も日本の教育にも私たちは希望を持って臨んでいます。メンバーはその想いで繋がっています。

どちらが本業！？な時期もある

・ イベント前後は、忙しい！
→家族など、周囲の理解が必須な時期です。
→メンバー同士、状況を伝え合い、思いやりながらの作業期間です。

・ニュースレター編集の時期は、文字でお腹いっぱいに。
→でも、リヒテルズさんの記事を先読みできるという特典あり。

・講師をしたり、問い合わせに対応したりすることも多くなってきた。
→【イエナプラン】とは何か？という大切なことを見つめ直す機会に恵まれています。



Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

支部報告 （2018年10月から2019年３月までの活動をまとめてご紹介いたします。）

◎新支部結成

新たに活動が始まった、宮城、神奈川（湘南）、長野（南信）木曽からの報告をお送りします。

【宮城支部】NEW!

2018年11月から始まった宮城支部の勉強会では、インターネットを使ったテレビ会議システム「Zoom」を使用して「20の原則」を読み解いています。
そのため、宮城に住んでいない方でも参加ができ、東京や長野などからの参加者も多くいらっしゃいます。
宮城支部では、「20の原則」のオランダ語と英語訳と日本語訳を読み比べながら読み解き、そこから新たに「宮城支部版の20の原則」をつくっています。もちろん、リヒテルズ直子さんの訳から大きく変わることはありませんが、私たちが色々とおしゃべりしたことのかけらが残っていくような訳になっていくのがおもしろく、納得感も生まれています。
月に２回程度のペースで行なっていますので、もしよろしければご参加ください。

《活動日》
・10月12日（金）23日（火）
・11月14日（水）27日（火）
・12月11日（火）18日（火）
・１月8日（火）28日（月）
・２月12日（火）25日（月）
・３月1日（金）

（報告：中川 綾）

【神奈川（湘南）支部】NEW!

たまたまFacebookで目にした「イエナプラン教育」についての記事との出会い。こんな環境で学びたかったなぁ、これから学校に通う子どもたちにもこんな環境で学んでほしいなぁ、と強く思ったのがきっかけとなり、共に子育てをする仲間たちに「教育について語ろう！」と声をかけてスタートした活動が「わわわのわ 」です。その中でイエナプラン教育の神奈川（湘南）支部としての活動もスタートすることになりました。
活動を始めて、同じ感覚で子どもの学び場について、一緒に学び合える仲間たちとの新たな出会いもたくさんありました。２月24日（日）に行われた協会の方をお招きしての勉強会には、家族での参加が多く、お父さんや子どもたちも輪に加わり学び合う姿がとても印象的でした。これからはこの輪が広がっていくといいなぁと思っています。

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

今はFacebookグループページ「わわわのわ 」を通じて情報を発信しています。湘南支部のグループページも立ち上げる予定です。また、これからは「20の原則を読む会」なども実施してみたいと思っています。よろしくお願いします。

《活動日》
・11月19日（月）　わわわカフェ Vol.1　～私と学校～@市民の家
・12月７日（金）　イエナプラン勉強会異年齢学級&ワールドオリエンテーション@フジサワラボ
・12月20日（木）　わわわカフェ Vol.2　～これからの子どもたちに必要な教育とは？～@市民の家
・１月18日（金）　イエナプラン勉強会　４つの基本活動&時間割@フジサワラボ
・２月18日（月）　イエナプラン勉強会　異年齢学級&４つの基本活動@メンバー自宅
・２月24日（日）　午前「日本イエナプラン教育協会の方のお話を聞く会～子どもたちが自立と共生を学ぶためにできること～」@湘南大庭市民センター
午後「今後の実践につなげよう♪意見交換&交流会」@駒寄市民の家

（報告：菊地　萌）

【長野（南信）支部・イエナカフェ木曽】NEW!

南信支部では、伊那とは別に木曽でもイエナカフェを行うことになりました。イエナプラン教育を通して、自分のことや周りのことを振り返る場を作りたいと思い、活動を始めました。木曽町の地域おこし協力隊の方に協力していただきながら、計３回の活動を行いました。会場はいずれも「ふらっと木曽（ワークセンター木曽町）」です。

《活動日》
・11月20日(火)　イエナカフェ@木曽　Vol.1
イエナプラン教育のDVDと大日向小学校の紹介ムービーをみて、参加者と対話をしました。私の学校の同僚や木曽の地域の中で教育に興味がある方が集まりました。
【参加者の感想】
こんな教育があるとは知らなかったし、それが日本で実現しようとしていることにも驚きました。全体を通して一番感じたのは、「大人」が「私」がまず変わらないといけないということです。小さなことから

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

この考えを取り入れたいです。授業ももっと、子どもの「知りたい」を刺激するものにしたいし、一緒に問いを出していくということもやってみたい！とにもかくにも自分が変わりたい。あと教育の目的は「子どもが幸せに生きていけるようにすること」これを忘れちゃいけないと思いました。

・12月12日（水） Vol.2
服部秀子さんから教えていただいた、「20の原則」を知ることを通して、自分自身を振り返るワークショップを行いました。町の教育委員会の方にも来ていただき行いました。
【参加者の感想】
前回イエナはメソッドではなく、コンセプトだっていう意味がよくわからなかったけれど、今日ストンとそれがわかりました。またペアの会話の中で「ビジョン」を持つことがとても大切だということに気づきました。

・２月22日（金） Vol.3
DVD「異年齢学級」を視聴し、「20の原則」１を読んで、参加者と対話をしました。小規模の小学校で異年齢の学習を実践している先生に来ていただき、実践も紹介していただきました。
【参加者の感想】
教育に対して同じような考えをもった方々と対話する中で、また違った見方や考え方に気づけたり、考えを広げられたりすることが出来、良い時間を過ごせました。木曽から子どもたちが学ぶ楽しさを感じられる学校を広げていきましょう。

今後も誰でもふらっと立ち寄って、学び合える持続的な場にしたいと考えています。また、木曽地域は長野県の中でも、過疎化が進み子ども数の現象が激しい地域でもあります。そういった意味でイエナプラン教育のコンセプトも広がっていくといいなと思っています。

（報告：小林直樹）

【埼玉支部】
少人数で「20の原則」とその解題を読んでいます。わいわい話しながら読んでいると、２時間半があっという間です。１つの原則についてかなり掘り下げて実践を振り返りながら進めています。

《活動日》
・10月21日（日） 第11回勉強会「原則６を読む」
・11月18日（日） 第12回勉強会「原則７を読む」

（報告：田村悠子）

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

【千葉（浦安）支部】

《活動日》
・２月10日(日)午後、フォーラム『グローバル時代の新しい公教育』開催。
帰国中のリヒテルズ直子さんを招いての講演、及びパネルディスカッションを行いました。 パネリスト（以下敬称略）は、門脇厚司（つくば市教育長）、 久保礼子（日本イエナプラン教育協会代表理事）、桑原昌之（学校法人茂来学園大日向小学校校長）、 中川 綾（佐久穂町イエナプランスクール設立準備財団代表理事）の４名の方々です。
講演前のリヒテルズさんの挨拶の中で、会場から大きな反応があったのは、「公教育は公立だけではない」「公教育を担う教員の自由度をもっと拡げねばならない」という指摘でした。
リヒテルズさんの「市民のための市民をつくる教育」の講演後、「日本の教育改革に際し、イエナプランから学べること」について、ディスカッションが交わされました。　その様子は、Youtubeでご覧ください。 https://youtu.be/hlbew7jPKA8　今回、つくば市の教育長さんが参加してくださったように、各地でイエナプラン教育に対する関心が高まっています。今後どのような取り入れ方をされるのかに注目しつつ、自分の持ち場で学びながら実践を続けたいと思います。なお、現在リヒテルズさんが、一人で取り組む教師達を応援するため「ガイド本」準備中とのこと。８月の出版が待ち遠しいですね。

（報告：山田順子）

【東京（世田谷）支部】
「20の原則を読む会」として継続しています。現在は、新学習指導要領を読みながら、イエナプラン教育との繋がりや「20の原則」について考え、現場での可能性をおしゃべりしています。

《活動日》
・11月17日（土）「社会」
・１月20日（日）「音楽」

（報告：浅野聡子）

【東京（江東）支部】
2018年１月より毎月、オンラインでイエナカフェを開催して来ました。2019年の１、２月はお休みしましたが、３月からまた再開します！

《活動日》
・10月22日（月）
「20の原則」の12番目「学びの場（学校）で働く大人たちは、1から10までの原則を子どもたちの学びの出発点として仕事をします。」について、じっくりと語り合いました。
・11 月28日（水）
「20の原則」の原則１から10（人間・社会）についてと11から20（学校）について、どちらをより話し合

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

いたいか、申し込み時に選んでいただきました。
その結果、満場一致で原則１から10について、話し合いました。
・12月26日（水）
11月に参加してくれた大学生がゼミで「遊び」について取り上げたということで、急遽「遊び」について語り合うことにしました。遊びと娯楽の違いや、目的のない遊びの大切さなどについて語り合いました。
※全て、千葉（浦安）支部と名古屋支部との共催です。

《今後の日程》
ホームページをご覧ください。https://jenacafe.jimdo.com/

（報告：川崎知子）

【長野（東信）支部】

イエナプラン 教育を通して、問いを生み、各々の生き方について向き合っています。主催者、参加者関係なく、みなさんが主体者として、意見交換を月1回行なっており、今後は参加者同士で学び、取り組んでいることを表現できる場も用意して、さらに学び合っていく予定です。

《活動日》
・10月25日（木） vol.11
「特別企画:オランダのイエナプラン校教員研修報告」から、みんなでおしゃべりタイム

（報告：大越要）

【長野（南信）支部・イエナカフェ伊那】

伊那市にある「グループホーム楽多」リビングルームで、DVDを観たり「20の原則」を読んだりしながら、あれこれおしゃべりしています。

《活動日》
・10月６日（土） イエナカフェ＠伊那谷 Vol.15
「DVD・イエナプラン関係者へのインタビュー集/オランダ研修報告」
・11月17日（土） Vol.16 「イエナプラン教育を知ろう」
・12月16日（日） Vol.17 「DVD・イエナプラン教育の歴史/原則15」
・１月13日（日） Vol.18 「DVD・基礎編を観て話そう」
・２月17日（日） Vol.19 「DVD・ワールドオリエンテーション/原則16」

（報告：幕内那菜）

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

【愛知（名古屋）支部】

「20の原則」を通して教育・子育てについて学び合う学習会を名古屋市内で継続的に開催しております。関西支部とのコラボ企画を大阪市で協働開催しました。また、岐阜県内での学習会も開催します。そして日本におけるイエナプラン教育教員研修の研究講座（全４回）では、愛知（名古屋）支部の服部秀子の日蘭アカデミーにおける研究テーマであった「教員研修」を、愛知（名古屋）支部の服部剛典・千葉（浦安）支部の川崎知子と協働開催しました。

《活動日》

・10月22日（月）・２月２日（土）

「20の原則」を通して教育・子育てについて学び合う学習会（名古屋市）

・12月９日（日）

ワールドオリエンテーションに触れる－イエナプラン教育が公教育でできることは？－（大阪市）

〇日本におけるイエナプラン教育教員研修の研究講座（全4回）

・第１回：11月24日（土）・25日（日）

「概要・歴史・20の原則・私を認める」（犬山市）

・第２回：１月４日（金）

「ワールドオリエンテーション・他者を認める」（名古屋市）

・第３回：２月２日（土）

「ブロックアワー・サークル対話・私と他者の関係性」（名古屋市）

・第４回：３月２日（土）

「真正性・私とは？」（名古屋市）

《今後の日程》

・３月10日（日） Jenaplanイエナプラン教育講座 初級編&中級編（豊田市）

・３月17日（日） イエナプラン教育のコンセプト「20の原則」を通して、教育・子育てを考える
@ぎふマーブルタウン子育てカフェ（岐阜市）

（報告：若杉逸平）

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

【福岡支部】

2016年１月から読み始めた「20の原則」、昨年11月にやっと読み終わりました！！ほぼ３年。その間、色々な方が参加し、色々な議論があったなあと、最終回はちょっとしたお祝いムードでした。 また、１月は講師を招いてＳＤＧｓのワークショップを開いたり、２月は他の学習会グループとコラボして上映会と対話会をひらいたりと、面白そうだと思うこともやっていきます。

《活動日》

・11月23日（金）「20の原則」を読む会　原則20
・１月19日（土）　ＳＤＧｓを学ぶ
・２月10日（日）「Most Likely To Succeed」上映会と対話会

「20の原則」最終回！！

ＳＤＧｓワークショップ

（報告：久保礼子）

【オランダ支部】

オランダのあちこちに住む支部事務局メンバーで運営しています。ワークショップ開催や会報誌発行で、オランダに住むみなさんと勉強したり、オランダの教育・暮らしの情報を発信したりしています。

《活動》

・会報誌 De kring vol.4 10月号発行
・１月20日 支部事務局メンバー新年会
・会報誌 De kring vol.5 ２月号発行

《今後の日程》

メンバーの帰国などがあるので今後の運営の仕方を模索中です。予定は未定ですが、引き続き、オンラインや各地区でのイベント開催も念頭に検討していきます。いつも関心を持ってイベントに参加してくださるみなさん、会報誌を読んでくださるみなさん、感謝です！これからもよろしくお願いします！

（報告：山地芽衣）

Copyright©2019 一般社団法人日本イエナプラン教育協会 All rights reserved.

各支部のご案内

- 北海道（帯広）支部 … hokkaido-obh@japanjenaplan.org
- 宮城 支部 … miyagi@japanjenaplan.org
- 埼玉 支部 … saitama@japanjenaplan.org
- 千葉（浦安）支部 … chiba@japanjenaplan.org
- 東京（江東）支部 … chiba@japanjenaplan.org
- 東京（大田）支部 … chiba@japanjenaplan.org
- 東京（世田谷）支部 … info@japanjenaplan.org
- 神奈川（湘南）支部 … syounan@japanjenaplan.org
- 長野（東信）支部 … toshin@japanjenaplan.org
- 長野（中信）支部 … matsumoto@japanjenaplan.org
- 長野（南信）支部 … nanshin@japanjenaplan.org
- 愛知（名古屋）支部 … nagoya@japanjenaplan.org
- 関西（大阪）支部 … kansai@japanjenaplan.org
- 福岡 支部 … fukuoka@japanjenaplan.org
- オランダ支部 … oranda@japanjenaplan.org

※ 千葉（浦安）支部、東京（江東）支部、東京（大田）支部は共同 運営しています。

発行元 ： 一般社団法人 日本イエナプラン教育協会 [住所] 〒155-0033 東京都世田谷区代田6-12-33 Sビル 1 階
編　集 ： 一般社団法人 日本イエナプラン教育協会 [HP] http://www.japanjenaplan.org/ [mail] info@japanjenaplan.org